

筆者のブログにてまとめた解説と Q&A のまとめ

「学級経営 11 の武器」について

「ABA をベースにし、最低限度 1 年間で回せる、安定的な学級経営ができるようにする」というコンセプトのテキストです。専門用語はほぼ全てカットし、一般用語のみで解説しています。

これから教師になる方、若手の先生、あるいは若手を育てる立場の先生、ぜひお読みください！

【目次】

第 1 章 学級経営に活かす「行動の原則」

- 〔原則 1〕 「変えられるところ」を探す
- 〔原則 2〕 「心」より「行動」をみる
- 〔原則 3〕 「懲罰」には副作用がある
- 〔原則 4〕 行動は「減らす」よりも「増やす」
- 〔原則 5〕 「嬉しい」で増やす
- 〔原則 6〕 「直後」にほめる
- 〔原則 7〕 「望ましい行動」を引き出す
- 〔原則 8〕 行動の「前」と「後」をみる
- 〔原則 9〕 飽きれば効かない
- 〔原則 10〕 集団の力を使う
- 〔原則 11〕 補助とルールは過不足なく

第 2 章 いざ、実践

- 「学級目標」は使って使って使い倒す
- 「静」から学級をつくる
- 「時間」が学級を強くする
- 「シンプルなルール」が学びを高める
- 「公平」な給食をデザインする
- 頻発する「そうじトラブル」を防ぐ
- 廊下は「歩いたほうがトク」をする
- 「あいさつ」は楽しんだもの勝ち
- 「まえ、ならえ！」では動かない？

「活躍」すればトラブルは減る

【応用編】自治的なクラスへ

第3章 学級経営の悩み相談所

失敗事例1 ポイント制度が逆効果? 「投げやり」になりました

失敗事例2 「ほめる指導」で友情を壊しました

失敗事例3 「全員」ルールがトラブルになりました

失敗事例4 ほめたのに、もっと泣くようになりました

失敗事例5 「叱る指導」が問題行動を増やしました

失敗事例6 目標を掲げても、行動は変わりませんでした

学級経営相談所1 個別指導か集団指導か

学級経営相談所2 楽しい気持ちが仲直りに?

学級経営相談所3 なんとほめればいいですか?

学級経営相談所4 こんなに幸せでいいですか?

第4章 困難なケースへの個別対応

集団指導と個別対応

Q: 家庭でもこの本の内容を行うことはできそうですか?

A: 学校と家庭の差について、効果に影響しそうな点もいくつかあるので頭に入れておく必要があります。

・まず、この本では「行動の前」→「行動」→「行動の後」の3段階で指導を考えますが、この内、「行動の前」には子どもをやる気にさせるようなお話を含めることがあります。このようなお話によってやる気を引き出す方法を採用する場合、話す側(教師や親)への尊敬の程度が関係することがあります。

・また、子どもの行動は当然「場」によって変わります。家と学校では、当然家の方がリラックスする場面であり、勤勉な行動は生じにくくなります。(それが当たり前です)

・グループの力を使う部分があるので、兄弟が3人以上の場合には活用可能かもしれませんが。ただし、学校は同年齢の集団、兄弟は異年齢の集団であるということも念頭に置く必要があります。兄弟の年齢の差が大きい場合は一律の方法を採用するのではなく、上の子が下

の子に優しくサポートし、下の子は上の子の話していることに柔軟に応じる、という方向でマネジメントすることも一案です。

Q：特別支援学級で使用する上で注意すべき点がありますか？

A：トラブル対策は二重三重に考えておきましょう。

- ・本書には学級全体へのマネジメントに関して含まれていますが、それ以上に個へのサポートが必要になるフィールドです。
- ・しかし、特別支援学級の定員は8人、そう考えると集団への指導の充実も必要となります。
- ・集団への指導で近年ニーズが高いのがトラブル予防です。たまに生じるトラブルから学ぶことがあったとしても、頻度が高すぎるトラブルから生じるのは疲弊と不調だけです。
- ・そこで、本書の失敗事例も参考にしつつ、争い事を徹底的に減らし、学級全体がスムーズに運営される状況を作りましょう。そうすると個別の対応方法を考える余裕も生まれると思います。

Q：通級で使用する上で注意すべき点がありますか？

A：最初は本書で含まれるようなトラブル・エラーの対策に万全を尽くしつつ、徐々に在籍学級を再現した環境を作っていきます。

本書では様々な指導場面において子ども同士の争いを徹底的に避けるためのヒントを含めています。通級における小集団指導においても同様で、まずは成功体験を積み重ねなければなりませんから、トラブルの予想と回避を図ることが大切です。

しかし、通級を利用する子ども達の場合、1週間の大部分を通常学級で過ごすこととなります。そこで良く聞かれる現象が「通級だと上手く行くのに、通常学級に戻ると、、、」という状況です。これはこれで当たり前で、訓練場面とスキルを発揮する場面が異なっていれば、スキルが発揮しにくくなるのは当然なのです。（マリオカートをやったら車の運転ができるようになった、なんてこと無いですね？）

そこで、まずは手厚いサポートの下、通級で成功体験を積んだら、在籍学級のルールに寄せた実習を行うことをお勧めします。在籍学級における各場面のルールを担当に確認し、それに通級での指導を寄せていきましょう。

Q：本書の内容を放課後等デイサービスで使いたいのですが、学校での指導と異なるところはありますか？

A：行動の原則は同じですが、学校側の弱点を念頭に置いて下さい。

- ・本書は小学校の通常学級（または情緒障害特別支援学級）を主たるフィールドとして想定しています。そのため、指導者側（教師）の文化としては、各教科の「お勉強」の指導が中

核となり、その周囲に余暇の指導が存在する、という感じになります。（もちろん児童文化を最重視する先生もいます）

- ・週5日の放課後に毎日数時間、学校レベルで各部の指導をキチッと抑えていくと、子どもは相当疲労するはずです。8時間授業の学校に通っているのと同じなのだから当たり前です。

- ・規律を整えると子どもが疲れるが、整えないとトラブルが・・・というジレンマもあると思います。このような場合、パーテーションで区切って「個々に自由にできる」というようなブースを作り、トラブルの対策と自由度を両立させる時間を設けても良いかもしれませんね！

Q：特別支援学校で使用する上で注意すべき点がありますか？

A：個々の子どもの行動が、何によって生じるのか見極める必要があります。

- ・本書は小学校の通常学級（または情緒障害特別支援学級）を主たるフィールドとして想定しています。

- ・そのため、各種言語による指導が含まれています。言語による指導は当然、知的障害の程度が重くなればなるほど行動に影響しにくくなることでしょう。

- ・そこで、本書における「行動の後」の指導、すなわち望ましい行動が生じた後の称賛などの指導がとても大切になります。これは実際に「褒められた」というような実体験による学習であるため、言語を介さずに強力に行動に影響するのです。

- ・ただし、称賛的な指導が効かない子ももちろんいます。

- ・より個別化に特化した本はまもなく金剛出版から発売されるので、そちらを読んでください！